

ハリス理化学館同志社ギャラリー

第18回企画展

新島家と 安中藩

安中古文書学習協議会の
翻刻成果の公開

入場
無料

新島 公義 1919年(大正8)

会期

2019年4月9日(火)～6月9日(日)

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：月曜日、4月29日(月)～5月6日(月)

会場

ハリス理化学館同志社ギャラリー2階
企画展示室(同志社大学今出川キャンパス)

主催：安中古文書学習協議会・同志社社史資料センター

「新島家と安中藩

— 安中古文書学習協議会の翻刻成果の公開 —

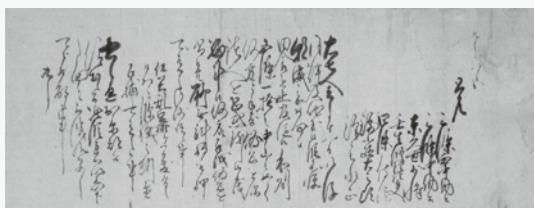
新島家と安中藩の関係を象徴する人物の一人が新島公義(1861-1924)です。公義は安中藩士植栗義達の次男として生まれ、1871年(明治4)、12歳の時に、新島襄の実弟・雙六の養子となりました。そして、同年雙六が死去すると新島家の家督を継ぎました。その後は、同志社で学び、卒業後は同志社でしばらく働きますが、1890年(明治23)新島襄の永眠後間もなくして同志社との関係は希薄になっていきます。ちょうどこの時期に公義に宛てて送られた書簡を中心とした852点を、同志社社史資料センターは2016年(平成28)1月に購入しました。そして、同年12月には、第11回企画展でこのうち12点の書簡を公開し、公義の交流の一端を示しました。

そして、2018年(平成30)、群馬県の安中市教育委員会が社会教育団体として認定する安中古文書学習協議会から提案があり、協議会の協力で新島公義宛書簡の継続調査が進むことになりました。協議会は全852点のうち書状112点を対象とし、安中市学習の森を活動拠点とする森の古文書学習会と共にこれらの書状の翻刻作業を進めました。この結果のうちから協議会の会員が担当した24通が、安中市民展第15回「私たちの郷土古文書読解展」で出陳されました。この成果を本展で共有します。

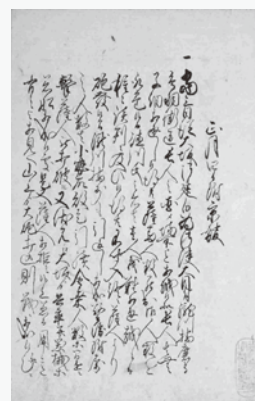
加えて、同志社社史資料センター所蔵資料から、新島家と安中藩、もしくは、新島家と公義の実家植栗家との関係を示す資料も展示します。



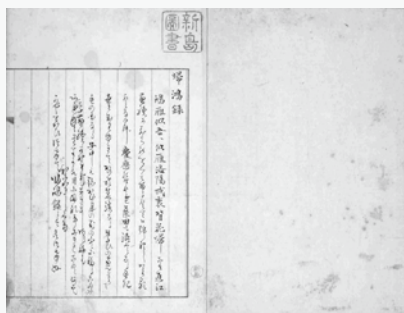
御曲輪朱引絵図 新島民治



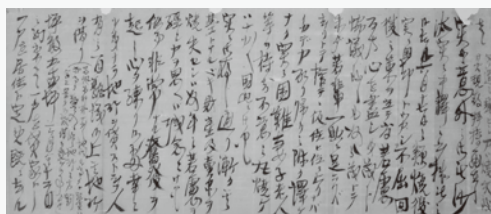
七卿落ちに関する触書写



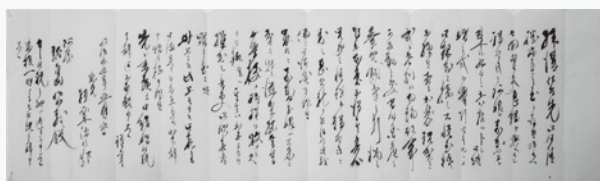
正月四日附京報写



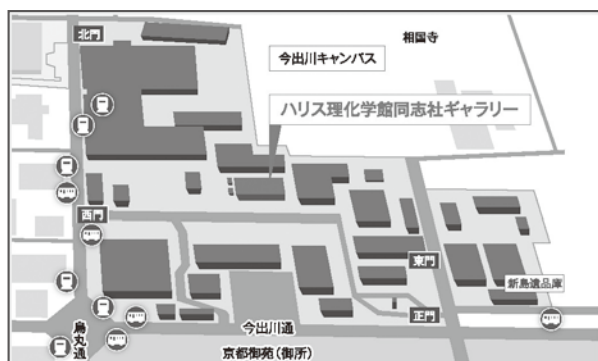
帰鴻録 新島雙六



新島公義宛長屋隣四郎書簡 1894年(明治27)9月4日付



新島公義宛植栗源次郎書簡 1896年(明治29)5月5日付



ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室

(同志社大学今出川キャンパス)

京都市上京区今出川通烏丸東入 京都市営地下鉄今出川駅下車徒歩3分

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局

Tel. 075-251-2716

同志社ギャラリーホームページ <https://harris.doshisha.ac.jp/>